

64  
1197

岡山縣令第十六号

改正宿屋取締規則

明治二十四年三月七日發布

完



岡山尾沼版所印刷

033592-000-5

特54-757

改正宿屋取締規則

菊池源助

M24

BBK-0435





岡山縣令第十六号

明治二十一年一月岡山縣令第十一号宿屋營業取締規則左之通り改正  
明治二十四年三月七日

宿屋取締規則

岡山縣知事千阪高雅



第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋(營利ノ爲メ一ヶ月ノ膳料座敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノ)木賃宿ノ三種

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類屋号及族籍住所氏名年齢等ヲ詳記シタル願書ニ客室坪數及間取ノ圖面ヲ添へ所轄警察官署ニ願出免許ヲ受クベシ但客室ヲ新造又ハ改造シタルトキハ坪數ヲ記シ其間取ノ圖面ヲ添へ届出ツベシ

第三條 宿屋營業人ニシテ轉居改氏名若クハ廢業死亡シタルトキハ速ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第四條 宿屋(下宿屋ヲ除ク)營業人ハ別紙雛形ノ宿泊人名簿甲乙二冊ヲ製シ所轄警察官署ノ檢印ヲ受ケ發着人毎ニ雛形ノ事項ヲ詳記シ午后十一時マテ其十一時ヲ過キ發着セタルモノハ翌朝午前八時マテニ交互所轄警察官署巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ届出檢印ヲ受クベシ其所在地外ニ於テハ巡回巡



查ノ檢印ヲ受クベキモノトス但外國人宿泊シタルトキハ速ニ届出ベシ

第五條 下宿屋營業人ハ下宿人投宿後二十四時間内ニ下宿人ノ族籍住所氏名年齢及下宿ノ事由ヲ詳記シタル届書ヲ所轄警察官署巡查派出所又ハ巡查駐在所ニ差出スヘシ其退宿スルトキ亦同シ

第六條 宿屋營業人ハ宿引ヲ出シ強テ旅客ヲ誘引スベカラス

第七條 宿屋營業人ハ正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スベカラス

第八條 宿屋營業人ハ宿泊人ノ承諾ヲ得スレテ來訪者其佗ノ者ヲ濫リニ其客室ニ入ラシムベカラス

第九條 宿屋營業人ハ宿泊ニ關スル費用ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所持品ヲ押収スベカラス

第十條 宿屋營業人ハ宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以テ宿泊人ノ求メナキ飲食物ヲ供スベカラス

第十一條 宿屋營業人ハ宿泊人ノ疾病ニ罹リタルトキハ醫藥食物等其ノ求メニ應ジ懇切ニ取扱フベシ

第十二條 宿屋營業人ハ宿泊人ノ所持品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第十三條 宿屋營業人ハ宿泊人ノ需メアルモ夜間十二時后ニ於テハ絃歌ヲ弄セシムベカラス但十二時前ト雖トモ他客ノ妨害トナルベキ喧噪雜沓ノ所爲ヲ爲サシム可カラス

第十四條 宿屋營業人ハ宿泊人ノ變死又ハ其所持品紛失シタルトキハ速ニ警察官吏ニ届出ベシ但現場ニ居合セタル者ハ可及的退散セシメサルヲ要ス

第十五條 宿屋營業人ハ客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸棚ヲ設クルヲ要ス

第十六條 客室ハ清潔ニシテ充分ニ光線ヲ取り空氣ヲ流通セシムベシ

第十七條 二階以上ノ客室二十坪以上アルモノハ其一階毎ニ二個以上ノ階子(幅三尺以上)ヲ設クベシ但階段ハ堅牢ニシテ手摺ヲ附スベシ

第十八條 便所ハ清潔ニシテ臭氣ノ客室ニ達セサル距離ニ於テ構造スベシ

第十九條 本則第二條(但書ヲ)第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條(除ク)第十一條第十三條第十四條(但書ヲ)第十六條第十七條第十八條ニ違背シ

タルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ處分セララルベシ



宿泊人名簿雛形

表

明治何年何月何日調製

宿泊人名簿

面

紙數何枚

何町村何番邸  
宿屋營業人  
何某

署印

裏面ハ屋号ヲ記ス

紙		用			
特相	出發月日時	旅行ノ要旨	行先地	地名	氏名年齢
貌	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
徴	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
身丈	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
言語	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
其他特徴	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
眉毛	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
頭髮	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
髭	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
耳目	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月
鼻口	何年何月何日何時	何々用ニ付	何府縣何郡市町村	何府縣何郡市町村某方	何某何年何ヶ月

今般本縣令第拾六号ヲ以テ改正セラレタル宿屋取締規則ノ重ナル要領及理由ハ左ノ如シト云フ

改正ノ要領及理由

一 客室ノ坪數ヲ限ルハ財産ノ有無ヲ以テ營業ヲ制限スルノ嫌アルモノニ



- 付之ヲ解除セリ
- 二 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テハ何レノ地ヲ問ハス定住シ借住シ寄留シ及營業スルノ自由アルモノナルニ警察令ヲ以テ木賃宿ノ場所ヲ制限スルハ穩當ナラサルニ付之ヲ解除シタリ
  - 三 營業人ノ資格ヲ制限スルハ其生計ヲ奪フニ似タルヲ以テ之ヲ解除セリ
  - 四 營業上他ノ營業ヲ兼テシムルハ弊害ヲ生スルノ恐レアルベシト雖トモ其一理ヲ以テ營業ヲ制限スルハ憲法上ノ保明ニ違フノ嫌アルヲ以テ之ヲ解除セリ
  - 五 營業組合ヲ設クルト否トハ營業者間ノ協議ニ委スヘキモノニシテ警察令ヲ以テ之カ設置ヲ命スヘキモノニアラサルニ付之ヲ解除セリ
  - 六 營業上舉動不審ノ者ト認メタルトキ警察ニ密告スヘキノ義務ヲ負ハシムルハ則チ人民ノ信用ヲ害シ疑懼ノ念ヲ生セシメ風俗上ノ弊害ヲ醸出スルモノニ付之ヲ廢止セリ
  - 七 宿賃下宿料等ハ彼ノ人力車賃錢ノ如ク人民ヲ害シ大ニ迷惑ヲ與フルモノト同視スヘキモノニアラスシテ人民相互ノ意思ニ委シテ可ナルモノニ付敢テ認可ヲ與フル如キハ干涉ニ過クルヲ以テ之ヲ廢止セリ

- 八 營業上雇女ヲ抱ヘタルトキ届出ヲ命スルハ殊ニ風俗ヲ害スルノ虞アリトシテ之カ取締ヲナスノ精神ニ外ナラスト雖トモ其取締ノ實ヲ舉ケンコト甚ダ難シ寧ロ刑法ノ正條ニ依リ其取締ノ實ヲ舉クルニ如カサルヲ以テ斯カル煩雜ノ手數ヲ營業者ニ負ハシムルノ必要ナキニ付之ヲ廢止セリ
- 九 宿泊人名簿ヲ一年間保存スヘキノ義務ヲ負ハシムルハ穩當ナラサルノミナラス必要ヲ認メザルニ付之ヲ廢止セリ
- 十 客室毎ニ備フル錠前付ノ押入又ハ戸棚ハ必ス設クベシトノ命令ヲ除キテ其設置ノ必要ヲ示スニ止メタリ
- 十一 階子ヲ設クルニ階ノ十五坪ヲ二十坪ニ改メタリ
- 十二 營業上ノ看板宿泊料客室番号及下宿人ノ名札ヲ掲クベキコトヲ命令スルハ必要ヲ認メサルニ付之ヲ廢止シテ營業者ノ隨意ニ任セタリ
- 十三 宿泊人名簿ハ甲乙二冊ヲ製シテ交互届出檢印ヲ受クルコトニ規定シ現在ノ原簿及投宿届ヲ廢止セリ
- 十四 下宿届書二通ヲ一通ニ改メ檢印ヲ受クルコトヲ廢止セリ
- 十五 營業人ハ投宿ヲ望マサル旅客ヲ強テ無理ニ誘引スヘカラサルノ規定



ヲ爲セリ

十六 便所ノ個所及尿管ヲ受容スル器具ノ制限ヲ解テ營業者ノ便宜ニ任セ  
タリ

十七 營業人所轄警察官署ノ所在地外ニアルモノハ毎月二回宿泊人名簿ヲ  
届出ルノ規定ヲ改メテ巡查巡回ノ節檢印ヲ受クルコトヲ得ルノ便宜ヲ  
與ヘタリ

明治廿四年三月十四日印刷落成  
同 年三月十六日出版御届

岡山縣平民

編輯者兼  
發行者

菊池源助

岡山市上之丁百廿二番邸

全縣平民

印刷者 西尾大吉

岡山市大字平野町三十四番邸



26-80